



いきいきかわら版仙台支部

第33号

会員の皆様におかれましては、コロナ感染もなく、お健やかに過ごしの事と存じます。宮城県内各地でワクチン接種が始まり、既に1回目・2回目を終了された方もいらつしやるとお聞きしており、スタッフ一同、安堵しているところです。

弊会スタッフもワクチン接種を行った者もあり、今後、皆様とお会いできる日を楽しみに待つております。

政府が言うように、ワクチン接種がこの状況を打破する切り札とまでは言い切れないものの、ワクチン接種が蔓延防止の有効な一助であることは弊会医療アドバイザーの先生からお話を頂いております。会員の皆様も、体調に問題がなければ、ワクチン接種を行うことをお勧め致します。

先日、6月16日TBCの夕方のニュースで弊会が所属している一般社団法人シルーパートナーズの会員様が出演致しました。内容は、生活困難者で住居が探せない方をサポートする内容でした。

弊会も、この企業と常に連携しており、区役所の保護課の依頼で、生活困窮者の皆様のお手伝いを行っております。コロナ禍で生活保護の申請が全国的に増加しており、宮城県内でも震災発生時に迫るような増加傾向にあると言われております。いきいきつながる会は微力ですが、高齢でお困りの方へこれからも手を差し伸べて参ります。このような内容を先月もお知らせ致しました東北放送のラジオ番組「エンジョイ」に7月21日水曜日弊会支部長の池田潔が生出演してお話をさせていただきます。ただ事になりました。お時間がありましたら、是非、お聴きください。今から、緊張しておりますが……

応援します！
コロナ禍で
奮闘する地元企業やお店

tbcラジオ



地元応援！今を垂り切る“あの街 その店 この会社”

- 放送日時 毎週水曜日 11:15頃～ ※約4分
- パーソナリティ 大久保悠 ※予告なく変更になることがあります
- 放送形態 tbc第3スタジオから生放送

シニア福祉アドバイザー 潔のワンポイント講座

今年の夏は全国的に猛暑が予想されています。新型コロナウイルスの感染拡大に対する警戒が続く一方で、熱中症など、暑さによる健康への悪影響も軽視できません。

特に患者数の多い高血圧症患者は、これまで通りの薬の服用を続けると低血圧を起こす恐れがあります。

「血圧を下げるための内服薬（降圧剤）には幾つかの種類があり、一部の薬は体内が脱水状態に陥ると作用が強くなるものもあります。

1年を通して同じ薬を同量服用している場合、夏は暑さで発汗が多くなるため、効き過ぎて逆に低血圧になつてしまう危険がある」と東京慈恵会医科大学の教授（腎臓・高血圧内科）はこう指摘した上で「降圧剤を処方されている人は、梅雨明けまでに一度医師に相談し、必要であれば薬

の量を調整してもらつてほしい」と話されています。低血圧はめまいやふらつきなどを引き起こすとともに、脳梗塞の発症リスクを高めてしまうからです。「高血圧症の治療では、通常血圧が高いと患者に注意する。下がると『良かった』と考えるのが普通ですが、ただ、夏場は自覚がないまま脱水傾向になる人が多くなります。

高血圧症の比率の高まる高齢になるほど、体温調整の機能が低下します。喉の渇きなども感じにくくなつてしまうために、軽度の熱中症になつても気が付きにくくなります。

高血圧の方は家庭で毎日2回、起床時と就寝前など決まつた時間に血圧と体重を測定してノートなどに記録することも重要です。夏が目の前まで来ています。体調管理にはくれぐれもお気をつけ下さい。



マリーゴールド



6月の花

ラベンダー

